

第 11 回 第 5 期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

- 【日 時】 平成 27 年 12 月 7 日（月） 午後 7 時 00 分～ 8 時 25 分
- 【場 所】 武蔵野クリーンセンター 3 階見学者ホール
- 【出席委員】 阿部迪子 石川洋一 岡内歩美 加藤慎次郎 狩野耕一郎
（敬称略） 木村 浩 迫田洋平 田口 誠 竹下 登 中里陽一
西上原節子 能勢方子 古川浩二 山谷修作
- 【事務局】 齋藤課長 和地クリーンセンター所長 他
- 【欠 席】 花俣延博
- 【傍 聴】 2 名
- 【配布資料】
- 資 料 1 平成 27 年度 一般廃棄物処理基本計画 事業取組
- 資 料 2 基本計画の課題の検討について
- 参考資料 1 4～10 月の武蔵野市家庭ごみ・資源物排出量
- 参考資料 平成 27 年版 事業概要

「会議に先立ち、年度当初の開催を予定していた当会議の開催が遅延した理由について、事務局より説明を行った。」

1 開会

【委員長】

これから、第 11 回武蔵野市廃棄物に関する市民会議を開催する。

2 議題

【委員長】

議題（1）「平成 27 年度事業の取組」について事務局の説明を求む。

「事務局より 資料 1 「平成 27 年度 一般廃棄物処理基本計画 事業取組」の内容について、説明を行った。」

【委員長】

ご意見があれば承りたい。

【A委員】

資料1について、「平成27年度の計画及び取組状況」の結果及び取組状況の欄が空欄となっていることについては事務局より説明があったが、実施日の記載がある各種の啓発活動のうち、すでに結果の出ているものについては、結果及び取組状況に関して何らかの記載をする方が妥当であると思うが、いかがだろうか。

【委員長】

確かに記載できる部分もあるように思うが、事務局の考えは。

【事務局】

A委員ご指摘の通り。事務局としてもこの様式の記載に慣れていなかったという事が1点。2点目として、本来ならばもっと早い段階でこの資料を会議にお示しすべきところであったが、この時期になってしまったために、すでに結果が出ている事業についてもこのような記載にしてしまった。こういった点でわかりにくい表現となってしまった。そういった部分については今後は是正していくことを考えている。

【委員長】

年度が終了したあと、翌年度にこの事業取組に関する報告があると思う。他に何かあるか？

私からお尋ねするが、(2) ごみと資源物の取り扱いの適正化「不法投棄対策」のところで「緊急対応センター」という言葉が出てくるが、どのような組織か。

【事務局】

市の業務の実施方法として平成26年度と27年度で大きく変わった部分。ごみ出しの新規申請や様々に寄せられる苦情の対応、不法投棄の現場確認等それまで市が直営で行っていた業務について、市の職員定数適正化計画の中で平成27年度より従事職員がゼロになることから、これらの業務を外部委託化した。その組織の名称を「緊急対応センター」と名付けた。業務の内容は従前同様である。

【委員長】

他にいかがか。

【B委員】

色々な計画を作ると良く言われることだと思うが、この計画の重点は何か、目玉は何か、継続するものは何か、一目で見てもある程度わかるものが工夫できないだろうか？この資料を全部読むのは大変である。

【事務局】

B委員の、一覧を見たときに要点がどこにあるかわかりづらい、という点についてはご指摘のとおりと思う。資料の体裁という事については今後の検討課題ととらえている。今回、この資料を作成して思ったことは、想像以上に項目の量が多くなる中で、重点項目がどこにあるかがわかりにくくなるということなので、様式や別紙の添付など表現の仕方については研究課題とさせていただきたい。

【委員長】

他にいかがか。

【C委員】

重点項目の話が出たが、この資料には随分織り込まれていると思う。ただ、ごみと言うと色々あるが家庭からでるごみの排出の主体は市民なので、具体的にどのようにすれば発生抑制やリユース、リサイクルにつながるか、といった情報提供を各家庭に対して行う事が重要と考える。そういったわかり易さの話だが、この計画では減量・資源化を不燃ごみや資源物の収集頻度の減については言及されている。例えば資源物の収集頻度の減という切り口から、具体的に紙についてはどうしようという議論になっていくのだと思う。もう一方で可燃物の収集頻度の減については項目には織り込まれなかったわけだが、可燃ごみの減量・資源化の流れについて今後どのように捉えていくのか、そこについて知りたい。

【事務局】

市として、今年度から来年度への予算概算要求に向けては資源物の収集の在り方という事に枠をはめて検討したいと考えている。可燃物とりわけ生ごみの資源化等について市が全市的に施策化するという事は極めて難しく、むしろ「クリーンむさしのを推進する会」などの市民団体のみなさんが市民目線で取り組んでいただくのにふさわしい課題と考える。そういう意味で可燃物の収集頻度の見直し等については非常にハードルが高いと考えているため、今回の課題設定には含めていない。まずは具体的な変更点がイメージし易いものとして資源物の収集を中心とした課題検討を行っていきたいと考える。

【委員長】

収集の在り方の見直しという、次の議題に関する話も出てきたので、次の議題に移りたいと思うがいかがか。

(異議なし)。

それでは、次に議題(2)の「基本計画の課題の検討」について事務局より説明を求めらる。

《事務局より、議題（２）の資料２「基本計画の課題の検討について～ごみ収集のあり方検討委員会の設置について～」の説明を行った。》

【委員長】

ただいまの事務局の説明について、ご質問、ご意見等あればお願いしたい。

それでは、私の方から確認させていただきたい。資料２の「(2)主な論点〈ステージ１〉②資源物収集頻度減の場合の発生量削減効果」について、ある程度実証的に探るとなると、一般的に自治体などではモデル実施をやる事が多いと思うが、他市の実績を収集・検討するなどの方法もあるかと思う。どのようなやり方を考えておられるのか？

【事務局】

実際に明らかになるかどうかは難しい課題と思っている。手法としては二通り考えている。一つは、実際に収集頻度を削減した自治体の実績例の収集と検討。もう一つは、市民の行動が収集頻度の減によって変わるのか変わらないのか、といったことについてのアンケート調査を行うつもりである。

【委員長】

モデル実施までは考えていないという事で理解した。アンケートでは受容性についてはかなり把握できると思うが、削減効果についてどこまで掴めるのかといった問題がないわけではない。

【C委員】

具体的な施策ができれば、地域を限定したモデル事業の実施は必要だと思う。そこで具体的な問題点が出てくると思うので是非モデル事業を実施して欲しい。どこの段階で実施をするか、という問題もあるかと思うが。

【委員長】

そのようなご意見もあるので、事務局の方でも参考にさせていただきたい。

他にいかがか。副委員長、何かご意見あれば。

【副委員長】

資料２においては〈ステージ１〉で行政収集を考え、〈ステージ２〉で民間収集を考えると事だが、時期的にずらして別々に考えるのか、相互に関係性があるものとして考えていくのか。きっちり分けられるものではないと思うのだが。

【事務局】

〈ステージ1〉、〈ステージ2〉と言うのは施策ごとに整理したものであって、当然相互に密接な関係があるものと考えられるので総合的に検討したいと考えている。あくまでも便宜上〈ステージ1〉、〈ステージ2〉としている。両者については総合的に検討することが大前提となっている。

【委員長】

他に質問はあるか？

【B委員】

「ごみ減量協議会」の位置付けについて確認したい。「ごみ収集の在り方等検討委員会」での検討終了後に再び「ごみ減量協議会」を立ち上げるということで良いのか、その際の「ごみ減量協議会」は従前の「ごみ減量協議会」と同じなのか、異なるのか知りたい。

【事務局】

来年度、「ごみ収集の在り方等検討委員会」での検討終了後に立ち上げる「ごみ減量協議会」については、現時点での「ごみ減量協議会」の設置要綱の見直しを行い、課題検討を目的とする組織に改組したいと考えている。従って、現時点より再立ち上げにいたる間の「ごみ減量協議会」の位置付けは休止ということで考えている。ただ、「ごみ収集の在り方等検討委員会」の委員構成として、基本的には従前の「ごみ減量協議会」の委員の方々にほぼご参加いただくとともに、当「ごみ市民会議」の一部のメンバーに加わっていただく形を考えている。

【委員長】

C委員、どうぞ。

【C委員】

「ごみ収集の在り方等検討委員会」で、来年の8月までに一定の方向性というか、基本的にこういう事を実施するんだ、という項目が具体的に出されたとして、それを実施するとなれば年次の実施計画に盛り込んでいかなければならない。そうするとその為に短期的な方向性ではなく、ある程度中期的なスパンのものについて「ごみ減量協議会」が、課題解決について検討の内容を深めていくということなのか、その辺の流れはどのようになるのか教えていただきたい。

【事務局】

まず、来年の8月までの検討の過程であるが、ごみ収集の在り方についてどのような見

直しをしていくのか、について大きな方向性を出せれば、と考えている。ただ、「ごみ収集の在り方等検討委員会」の検討だけで進めて行く、ということではなく、そこでまとめられた考え方について、パブリック・コメントや市民アンケート等の手法を取り入れながら、この会議での皆さんのご意見や、市民の皆さんのご意見を反映させていきたいと思っている。具体的な課題については、課題解決の方向性について短期、中期、長期の方向性が出せれば、と思っている。

【委員長】

よろしいか、それではD委員どうぞ。

【D委員】

資料2を見て思った事であるが、「ごみ収集の在り方等検討委員会」を充実した委員会とするためには、資料を見ているだけでは何も出てこないのではないかと、先ほどから他の委員からもご意見として出てきているように、是非モデル事業を実施していただきたい、ということが1点。2点目として市民アンケートの実施方法についてだが、難しい言葉で市民に問うのではなく、ぜひ、市民目線で回答し易い内容の物にして欲しい。せっかくこのような検討委員会を設置しても、市民からの声が集まらないことには、検討の意味がないと思うので、是非この点についてはお願いしたい。

【委員長】

モデル事業の実施については、この会議で出されたご意見を事務局の方でも参考にしていただきたい。また、わかり易い言葉による市民アンケートの実施ということについてもご意見のとおり。重要なお指摘と思う。

E委員どうぞ。

【E委員】

何年前かに不燃ごみの収集頻度を週1回から月2回に減らした。今では皆、当たり前のように思っていると思うが、変更当時はクレームが相当あったものと思われるが、当時はどのように対応をしたのか？

【事務局】

当時対応した者がすでにいないので類推にはなるが、不燃ごみの収集頻度を減らす前に、それまで不燃ごみとしていたプラスチックを可燃ごみに分別変更を行った為、不燃ごみとして排出されるごみの量が大幅に減っていたという事実に加え、不燃ごみは生ごみのように臭いを発することもないということなどにより、それなりに苦情はあったとは思いますが、それほど深刻な問題にはならなかったものと思われる。

【委員長】

それでは、関連事項として、最近のごみ排出動向について事務局より説明を求む。

≪事務局より 参考資料1「4～10月の武蔵野市家庭ごみ・資源物排出量」の内容について、説明を行った。≫

【委員長】

今の事務局説明について、何かあるか？ なければ、先ほどの資料2に戻りたい。

「ごみ収集の在り方等検討委員会」の設置・稼働についてはこの会議として承認いただくという事でよろしいだろうか？（異議なし）

それでは、ごみの収集の総合的な在り方については「ごみ収集の在り方等検討委員会」でご検討いただき、一定の方向性が定まったら、この会議にご報告いただくことになる。そしてまた、この会議でも意見を出し、検討結果を市長に報告するという事にさせていただきます。

それでは議題（3）「その他」として今後のスケジュールについて、事務局からの説明を求む。

【事務局】

今後のスケジュールであるが、平成27年度分については、本市民会議の開催は予定されていない。平成28年度については5月を目途に、この会議を開催させていただきたい、と考えている。「ごみ収集の在り方等検討委員会」において、検討結果の中間取りまとめがまとまった段階で、当市民会議にご報告させていただきたいと考えている。合わせて、先ほどお示しした資料1に関して、5月の段階で新年度の計画と、平成27年度の事業取組の達成状況について、取りまとめができた部分についてはご報告させていただきたいと考えている。従って、次年度については平成28年5月にご検討いただければ、と考えている。

【委員長】

それでは、本日の議事はすべて終了した。以上をもって本日の会議を閉会とする。

以上